

## 平成16年度 活動報告書

平成16年7月6日付で通知を受けた事業が完了しましたので、関係書類を添え、下記の通り報告いたします。

### 1. 事業の名称：カンボジア保育事業

### 2. 実施期間：2004年8月～2005年7月

### 3. 活動の目的

「今日の子どもたちの幸せが、明日の平和な世界へとつながります」…これは本会の掲げるスローガンである。幼児期に必要な教育を受け、社会性を学ぶことは、子どもたちの将来に大きな影響を及ぼすといわれている。本会はカンボジアの未来を担う子どもたちの健全な成長を願い、地域の住民と協力しつつ、より良い保育を実現し保育者の育成に努める。

### 4. 内容と方法

#### (1) 保育者育成

本会が運営する4カ所の保育所の保育者16名と、現地NGO「ケマラ」が運営する2カ所の保育者6名に研修を実施した。またカンダール州教育局の要請を受け、州内公立幼稚園の保育者を対象にした保育者研修に協力した。

#### (2) 保育所運営

本会が運営する4カ所の保育所の運営と、現地NGO「ケマラ」が運営する2カ所の保育所に協力した。

#### (3) 遊具教材の開発と製作

子どもたちの健やかな成長を支える遊具や教材を製作し、保育者研修等で目的と使い方を伝えた。

### 5. 実施経過と活動の成果

#### (1) 保育者研修

##### ①本会が運営協力する6保育所の保育者対象の研修

本会保育所の保育者、ケマラ保育者を対象に保育者研修を合計22回実施した(別紙参照)。

##### ②幼稚園教諭合同保育ワークショップ(別紙参照)

主催であるカンダール州教育局の要請を受けて、2004年9月と2005年1月、州内公立幼稚園教諭の保育者研修に2回協力した。参加者は、カンダール州内の教育局担当者、公立幼稚園教諭と本会の保育責任者である。4日間の研修では、「遊具づくりと使い方」をテーマとし、教材7種のうち本会が製作使用してきた教材6種を取り入れた。保育環境を整え子どもの学習能力を高めるとともに、参加者が地域の人々へ働きかけ遊具の使い方と理解を広めることを目標とした。保育者たちは各グループに分かれて人形、布ボール、ゼロ遊び用袋、砂数字、玉さし、ひも通しなどを手作りし、その目的と使い方について本会保育専門家が研修を行った。また、研修では、本会が運営する保育所の保育者と公立の幼稚園教諭との交流や情報交換を行うことができた。

同様に遊具をテーマとした研修を、2005年3月にはコンポンチュナン州ロレアップイア郡でも実施した。

### ③ カンダール幼稚園巡回保育研修（別紙参照）

2004年6月から毎月2回、カンダール州の各幼稚園を同州教育局副事務局長と一緒に巡回して保育研修を計15回実施した。1回の研修で周辺の幼稚園からも参加があるため、合計62園の保育者を対象とした。研修では、壊れたり古くなったら自分たちで作れる人形、パズル、竹馬、布ボールを選び、教材の目的と使い方説明し、実際に研修の中で使ってみた。そのほか、本会の教材である文字表、歌絵本、文字絵本、記憶遊びカード、文字パズル、子音パズルも配布した。外遊具のない園15ヵ所には、手作りブランコ、シーソー、滑り台を設置して環境整備を支援した。子どもたちの遊びの幅を広げ、幼稚園の環境を少しでも改善していけることを目指した。

2005年4月からは、このうち29園42クラスを回り、研修の評価を実施した。保育者が人形やパズルを手作りして数を増やしていたり、子どもの目線に合わせて文字表を壁に貼ったりする工夫が見られた。地域の人によって作られた外遊具は、多くの子どもが遊べる遊具であるためどこでも喜ばれ使われていた。

### （2）保育所の運営及び協力

保育所名	場所	運営	子ども人数	保育者数
バンキアン保育所	カンダール州カンダールスタン	本会	39	4
プレイタウ保育所	郡バンキアン地区		45	5
チェンクン保育所	フノンペン市タンカオ郡サム		22	4
トックエンタム保育所	ロンクム地区		22	3
スピエンホ保育所	フノンペン市ルイオ郡第6km地区	現地 NGO 「ケマラ」	48	3
マヒアップ保育所	フノンペン市ルイオ郡ルイオ地区		65	3

(2005年7月現在)

- ・ 2004 年 9 月、保育所では卒園式を行った。4 保育所では合計 44 名、ケマラ保育所では 31 名が卒園した。10 月の新学期には、4 保育所に新しい子どもたち 28 名、ケマラの 2 保育所では 9 人が園した。
- ・ 現地 NGO「ケマラ」の運営する 2 保育所は、2003 年 4 月から支援協力をしている。今年度は、保育所に通う子どもの人数を増やし、給食費の納入率を上げる（1 日計 10,000 リエル）を目指した。環境整備にも力を入れ、トイレと台所の衛生管理などを行った。
- ・ 上記 6 ヶ所の保育所間で、相互交流も試みた。2004 年 8 月、ケマラ保育所の年長の子ども 30 名と保育者が、本会が運営するバンキアン地区保育所を訪問し交流保育を行った。2005 年 7 月、都市部に近い環境のチェンメン・トロピエンタヌン 2 保育所の年長の子どもが、自然環境に恵まれた農村のバンキアン・プレイタトウ 2 保育所を訪問して交流保育を行った。一緒にダンスをしたり食事をしたり楽しい時間を過ごした。保育者にとっては、現場研修の良い機会となった。
- ・ 自主運営を目標とするバンキアン地区 2 保育所とケマラ 2 保育所は、子どもの保護者からわずかな保育料の提供や地域からの寄付を呼びかけている。2004 年 10 月、両地域の保育所関係者はタケオ州にある保育所を訪ねた。この保育所は現地 NGO からの支援を経て、現在は地域で運営資金を生み出している。この事例から自主運営へのノウハウやアイデアを学び情報を共有する目的であった。
- ・ バンキアン地区では、地域住民とともに保育所の自主運営を目指すことを目的として、1 月に保育所運営委員会を立ち上げた。地域住民から運営委員候補を募り、18 歳以上の住民 135 名による投票によって 4 人を選出した。4 人はいずれも女性で、子どもを本会の保育所に通わせたことのある保護者である。運営委員会はバンキアン副地区長、及び本会保育所責任者も含め、毎月協議を重ねている。4 月、運営委員会が主体となり住民の生活向上と保育所運営を目的とした貸付けを開始した。40 家族を対象に小規模のビジネス資金を融資し、返済利息を保育所の運営費に充当する計画である。
- ・ サムロンクロム地区のチェンメン保育所とトロピエンタヌン保育所は、同地区に現在建設を進めているテッカポンヨ公立幼稚園（自己資金充当）へ統合するため、2005 年 9 月に保育所を閉鎖する予定である。11-12 月、児童の家庭訪問を実施し、公立幼稚園への移行について保護者から意見を聞いた。また、事業評価のため保育者、保護者、村長、地区長などへのアンケートの用意などをした。
- ・ 移動図書活動を行う現地 NGO「シパー」と協力し、各保育所で月に 1.2 回、子どもたちに絵本の読み聞かせを行った。また、現地 NGO「カンボキッズ」の協力で、保育者と子どもを対象に伝統舞踊の講習を取り入れた。さらに、日本の支援機関「歯科医学教育国際支援機構」の協力を得て、園児の歯科検診と治療を定期的に行った。
- ・ 2005 年 6 月、現地 NGO「シェアカンボジア」の協力を得て、本会が運営する保育所の保護者を対象にエイズ予防のワークショップを実施した。合計 195 名が参加した。

## (2) オリジナル教材の開発

昨年本会が作成し好評であった子どもの手のひらサイズの絵本、「クメール文字絵本」の新しいシリーズとして、4種の絵本を製作した。子どもたちのよく知っている身近なものを描き、「どうぐ」「のりもの」「いきもの」「くだものやさしい」の4種類を選んだ。ページの左側に絵、右側にその名前をクメール文字で書き、道具や生き物の名前が文字を使って表せることを子どもたちが学べるような作りになっている。文字は親しみやすいように柔らかい書体を選び、絵は写真を使わず、カンボジア人の画家に描いてもらって、カンボジア人の感覚を大切にしたい。学校で文字を学ぶ前に、子どもたちが文字に親しむことを目的としている。近年教育省も文字の学習に力をいれているため、この絵本は本会が運営協力する保育所の子どもたちや、カンダール州に協力する幼稚園教諭の研修時に活用する。また、絵本に保育者や保護者向けの簡単な説明書を添えて、配布している。

## 6. 今後の課題

### (1) 保育者研修

カンダール州教育局に協力する幼稚園教諭の保育者研修は、2005年度後半から残りの幼稚園のうち26園の巡回研修を再開することになっている。評価を受けて、時間配分を見なおす。教材の数不足を訴える保育者は多くても、その使い方や目的を理解して子どものために使える保育者はまだ少ない。子どもが自由に遊びを選択できる環境について時間をかけて理解を深め合いながら、幼児期の子どもの学び方の特徴にも触れていく必要がある。

### (2) 保育所の運営及び協力

2006年3月に3年間の支援を終える現地NGO「ケマラ」の活動地で、2005年6月、保護者の家庭を訪問し都市の子どもたちの状況を調査した。中には母親が縫製工場で働き、月に\$40-50得る家庭もある一方、大半が工事現場の日雇い労働やバイクタクシーの運転手などで日々わずかな現金収入を得て生活している家庭であった。貧富の格差のある都市部では、幼い子どもたちを預ける必要性が高いが、3年の支援を終えた後、「ケマラ」が2つの保育所を自主運営できるかが課題である。

バンキアン地区でも運営委員会が組織され、地域住民による保育所の自主運営へ向けて動き出したが、彼らの意識と村での収入源が課題であり、今後も協議を続けていく。